資料3-2

【別紙】

財政見通しの見直しについて

熊本市上下水道局
Kumamoto City Waterworks and Sewerage Bureau

1. 見直しの方針

● 公表期間　後期実施計画期間（R7～R11）を第8次総合計画の目標年次R13に合わせる。
（R7～R13：計画期間を2年間延長）

● 算定期間　財政見通しの算定期間は、R7～R36の30年間とする。

● 令和11年度まで現行料金・使用料の水準を維持することを基本とし、水道料金・下水道使用料改定の必要性についても検討していく。

2. 見直しの主な内容

○ 将来推計人口などに基づく水道料金・下水道使用料収入の試算

○ 近年の物価高騰など社会情勢の変化に合わせた維持管理経費、建設改良費などへの対応

○ 新規事業の追加（水運用センターの更新、城南町浄化センターの増設 など）

○ 費用・支出の増加に伴う、財源確保の検討

3. 見直しの前提条件

水道事業会計

◇収入に関する主なポイント

水道料金収入	R5決算額をベースに、現在人口・将来の人口減少率（社人研 推計人口）・有収水量の減少傾向等を踏まえ推計します。
企業債	建設改良費の増額分の財源として、企業債発行額を増額します。
その他収益	資金運用していた投資有価証券のラダー運用を見直します。

◇支出に関する主なポイント

職員人件費	第7次熊本市定員管理計画をベースに定年延長を反映して推計します。
減価償却費	現在保有する固定資産と将来の投資（建設改良費）に係る減価償却見込額を推計します。
維持管理費等	施設や管路の経常的な維持管理経費等について推計します。
支払利息	既発行企業債分と今後の投資計画に基づく新規発行分から推計します。
建設改良費	工事費の高騰や新規案件への対応により増額する見込みです。
企業債償還金	既発行債の償還元金に加え、今後の投資計画に基づく企業債発行分を加算することから、増額する見込みです。

◇見直し後の見込み

純損益	計画期間中は黒字（純利益）を確保できる見込みです。
水道料金収入	人口減少や節水機器の高機能化により減少する見込みです。
内部留保資金	事業運営のため、一定水準の資金を確保します。
企業債残高	建設改良費の増額の財源として企業債発行額を増額することから、増加する見込みです。
投資水準	計画期間（R7～R13）は約80億円/年の投資を予定しています。

下水道事業会計

◇収入に関する主なポイント

下水道使用料	R5決算額をベースに、現在人口・将来の人口減少率（社人研 推計人口）・有収水量の減少傾向等を踏まえ推計します。
企業債	建設改良費の増額分の財源として、企業債発行額を増額します。
国庫補助金	直近の実績を踏まえ30億円/年とします。

◇支出に関する主なポイント

職員人件費	第7次熊本市定員管理計画をベースに定年延長を反映して推計します。
減価償却費	現在保有する固定資産と将来の投資（建設改良費）に係る減価償却見込額を推計します。
維持管理費等	施設や管路の経常的な維持管理経費等について推計します。
支払利息	既発行企業債分と今後の投資計画に基づく新規発行分から推計します。
建設改良費	工事費の高騰や新規案件への対応により増額する見込みです。
企業債償還金	既発行債の償還元金に加え、今後の投資計画に基づく企業債発行分を加算することから、増額する見込みです。

◇見直し後の見込み

純損益	計画期間中は黒字（純利益）を確保できる見込みです。
下水道使用料	人口減少や節水機器の高機能化により減少する見込みです。 また、下水道使用料の改定について検討を行います。
内部留保資金	事業運営のため、一定水準の資金を確保します。
企業債残高	建設改良費の増額の財源として企業債発行額を増額することから、増加する見込みです。
投資水準	計画期間（R7～R13）は約130億円/年の投資を予定しています。